

# NPC 2023 会議報告

東北大学 阿部博志

NPC2021 が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2年の延期を余儀なくされましたが、この度 NPC2023 が 2023 年 9 月 25~28 日に対面開催されました。開催地は Antibes (アンティープ) で、ニースから約 20km、カンヌから約 10km 離れた風光明媚な観光地です。バカンスシーズンも一段落して落ち着いた、気候面からも過ごしやすい時期の開催でした。

参加者は、23 ヶ国から 246 名 (フランスからの出席者数が突出しており、約 90 名) でした。3 件の基調講演、59 件の口頭発表、66 件のポスター発表があり、期間中 Radiolysis workshop が並行して開催されました。

初日の Opening 後は、Valérie Faudon (DG Sfen) から、"A nuclear revival: the signs" と題した基調講演がありました。エネルギー安全保障や Net Zero シナリオ等の観点からは、原子力発電の重要性が今後ますます増大することが強調されるとともに、2040 年代前半に予想される、既設原子力発電プラントの相当数が寿命を迎えることに伴う原子力発電量の急落 "cliff effect" への備えが必要であることも指摘されました。各講演の概要や技術的なポイントについては、別途報告書に纏めて水化学部会 HP に掲載していますので、是非ご覧ください (<https://wchem.sakura.ne.jp/2024/01/12/4248/>)。

私自身は NPC に初参加でしたが、毎日のランチが会場内にて立食形式で振る舞われ、またポスターセッションも期間中を通して実施されるなど、参加者間のディスカッションを重視した形式・タイムテーブルになっていたのが印象的でした。運営面に関しては、Opening の時間になっても一向に始まらなかったり (そもそも部屋が開いていない)、当日の昼休みに午後のセッションの座長を打診されたりと、私としてはやや戸惑う場面が散見されたように思いますが、参加者の多くは慌てる様子もなく、状況を楽しみつつ余裕を持って事に当たっているように感じました。些細なことは気にしない・寛容であることの大切さを目の当たりにしたと思います (これは NPC に限った事ではなく、多くの国際会議@海外で実感することですが)。会議直前ではありましたが、会議のスマホアプリが配布され、参加者はこれを通じてお知らせや最新プログラムを確認することができるため、ペーパーレス・利便性の観点から良い取り組みと思いました。

次回の NPC2025 は、2025 年 9 月 22~25 日に韓国 釜山で開催されます。詳細は、会議 HP からご確認下さい (<https://www.npc2025.org/>)。

以上